

九日間の貴重な経験

下吉田中学校 渡辺 悠太郎

コロラドへの姉妹都市派遣では、たくさんの人と交流を深め、自ら関わることができました。また、現地では、実際に行かないと味わえない、数多くの大切な体験を通して、たくさんのことを学びました。派遣団の仲間と支え合い、お互いに学びながら成長できました。

初日のバスや飛行機では、九日間、行動を共にするメンバーとたくさん話をして、交流しました。それまで知っていた人も、初めての人もお互いを知り、仲良くなることができました。空港での自由行動では、自分の中学ではなく、様々な人と話したり、昼食を一緒に食べたりして、距離が近づくことができたのも、私にとって大きな学びでした。機内では、和也君と隣で、共通の部活であるテニスの話など様々な話をして、仲を深められました。

そして、飛行機は、デンバー空港に到着しました。初のアメ리카本土への上陸は、とてもワクワクしました。デンバーでは、まず、土地の広さに驚きました。一面に広がる草原は、スケールの大きさを感じさせられました。

街の中は、様々な人がいて、建物はすべて英語、私は見慣れない風景に少し緊張しました。夜になっても、デンバーの街には人がたくさんいて、賑やかでした。私は、こののどかな雰囲気が好きになりました。ホテルのプールでは、アメリカの中学生と会いました。そこで私は、はじめて本格的に話しかけてみました。いくつか質問をして、答えてくれた時は、とても嬉しく、少し自信がつけました。

朝食は、セルフワッフルがありました。でも、一つが大きくて、すぐに満腹になりました。この日は買い物をしました。人生で初めてサングラスを買ったけれど、道行く人のほとんどがかけていて、違和感なくかけられました。それからたくさんお店を回って、楽しくデンバーを知ることができました。道の中央にはピアノやチェスをしている人がいて本当に穏やかでした。それは日本では見られない、真のゆとりや落ち着きだと感じました。

三日目は、いよいよホストファミリーとの対面でした。正直、すごく不安な部分もあって緊張していたけれど、いざ対面の時に、本当に温かく、笑顔で迎えてくれて、嬉しさや安心感が溢れました。その日は家でピンボールやボードゲームをして交流しました。家の地下に四台のピンボールがあり、ボードゲームも棚いっぱいあって、圧倒されました。ホストファミリーとの生活では、文化の違いや新たに発見したアメリカ、コロラドの良さをたくさん目の当たりにしました。まずは「食」です。大きなステーキは絶品で、本場の料理はやはりレベルが違うな、と感じました。次に、日本とは違った良き「挨拶」の文化です。カードを渡すなど、些細なことでも「Tank you」を口にして、これも一つの交流なんだ、と感じました。さらに、アメリカの広い土地や広い心にも驚かされました。別荘にて、広大な草原を超小型車で、フルスピードで駆け回るといふ、ダイナミックさも味わいました。ホストファミリーのジェシー&シージェイ君もフレンドリーで、一緒にラクロスなどをして遊び、ジェシー君はスポーツ、シージェイ君はDJが上手で、個性を生かした素敵な家族だと実感しました。また、私はスペイン語を教わり、ファミリーに日本語を教えたりと、自国の文化を交換し合えました。最後の夜は撮った写真でスライドショーをしていただき、本当にすてきなホストファミリーに会えて良かったです。

今回の派遣では、アメリカやコロラドの良さも改めて学べた上に、人と人との繋がり大切さを学ぶことができました。ここで得た経験を、まずは周りに広め、富士吉田や日本がさらに発展していけるように生かして歩んでいきたいです。